

## 被災地ボランティア休暇



### KDDI株式会社

総務・人事本部 人事部 厚生グループリーダー 課長  
小室 昌司さん

#### 企業プロフィール

- 事業内容：通信・通信サービス業
- 従業員数：11,194名(2012年3月31日現在)
- URL：<http://www.kddi.com/>

## 社員の取得のしやすさを第一に考えて 休暇を制定する

**実践！** こうすればできる！  
こうすればのびる！

- ① 必要に応じて迅速に対応
- ② 社員の業務を考慮する
- ③ 休みやすい休暇名をつける

### 被災地ボランティア休暇

被災地ボランティア休暇は、東日本大震災を機に震災の翌月に制定した特別休暇です。年間5日間を上限に1日単位で連続して取得することができ、分割する場合は2回まで可能です。当初は、10月までの半年間という期限つきでボランティア活動に参加する社員を支援することにしましたが、引き続き被災地では支援が求められていることに加え、今回のような未曾有の天災地変の際に公共性の高いサービスを担う事業者として社会貢献活動が求められる立場にあることから、半年経過した11月に恒久制度に切り替えて就業規則に盛り込むことにしました。

制度利用者は、制定初年度の2011年度で55人、延べ日数は142日間となっています。

休暇だけでなく、2011年から2012年度中にボランティア活動に参加する社員に対して、3万円を上限に

交通費実費、さらに5000円を上限に作業に必要な備品調達費の補助をしています。この補助制度の利用者は、すでに450人を超えていますので、被災地ボランティア休暇を利用せずに通常の年次有給休暇や土日を使ってボランティアに出かけている社員も多いとみています。また、CSR・環境推進室がボランティア・ツアーを企画・主催しており、2012年10月までに8回実施し、さらに年度末までに3回を予定しています。このツアーへの参加にも被災地ボランティア補助制度が使われています。

ちなみに、被災地ボランティア休暇とは別に、ボランティア活動に伴う休暇については年次有給休暇の次年度繰越未消化分を積み立てる、積立休暇の中で取得可能としています。

特別休暇ではありませんが、年次有給休暇の取得促進のために設けた制度を2つご紹介します。一つは2010年に制定した記念日休暇です。年に1回、本人や家族の誕生日、あるいは子どもの運動会など、本人や家族のために年休を計画的に活用し、ワーク・ライフ・バランスの実現を目的に導入しました。年度の最初に設定することで、積極的な取得につなげることができます。記念日を理由としますので休みやすい環境を作ることができますし、しっかりと休んでリフレッシュして欲しいという思いを込めています。

もう一つ、年次有給休暇を5日間連続して取得しやすくするために「フリーパケーション」を用意しています。弊社の場合、年末年始以外は全社員が一斉に連続で休む制度がありません。そこで時期に関係なく、それぞれの社員が業務の都合に合わせて自由に休める連続休暇として制定しました。名前をつけることで、取得のしやすさをねらっています。



総務人事本部 人事部  
グローバルグループ  
課長補佐  
南 勝則さん  
(被災地ボランティア休暇)

2011年の7月に被災地ボランティア休暇を1日取得しました。金曜日に休みを取ったので土日と

合わせて3日間のボランティアとなりました。作業は宮城県宮古市の沿岸部での側溝の泥出しでした。今回の震災では何かしらお手伝いをしたいという気持ちがありながら、ボランティア活動のためには当然仕事を休まなくてはならず、なかなか一歩を踏み出せずにいました。どうしようかと思っていたところに、会社でボランティア・ツアーを企画することを知り、参加することにしました。特別休暇として被災地ボランティア休暇があったことも後押しになっています。休暇申請をした後は、「一歩足を踏み出してくれてありがとうございます。頑張ってください」と部長からメールをいただくなど、職場の理解があったこともあり、被災地ボランティア休暇は周囲に気遣うこともなくスムーズに申請できました。帰ってきてから実際に現地で見聞きたことを伝えることも大事だと思っていましたので、朝礼の場等で状況報告をさせてもらいました。



コミュニケーション本部  
宣伝部 メディア戦略グループ  
課長補佐  
林 未樹さん  
(記念日休暇)

記念日休暇は、毎年取得している休暇です。年度始めにいつ取得するのか計画を立てる事前申請

スタイルになっていますから、申請してしまえばあとは気兼ねなく休むことができます。通常の年次有給休暇ですと、たとえそれが大事な記念日であっても、ちょっと言いづらくて「私用で」と言いがちですね。ですからこうした名称がついていることは、とても効果的だと思います。私の場合の記念日は自分の誕生日だったり、結婚記念日、夫の誕生日などいろいろです。計画していても仕事の都合がつかなくなってしまったときには、他の日に変更できるので、そんな時は親の誕生日にしたこともあります。

私の部署ではスケジュール表に「記念日休暇」と記載することになっています。そう書くことでまわりの人から「何の記念日なの？」などと聞かれることになり、コミュニケーションも取りやすくなり、ちょっとしたお祝いムードで職場の理解を得られるのもこの休暇のいいところですよ。